

# 第五回 家村中佐の兵法講座

平成二十四年八月十一日

## 九変篇

九種類の臨機応変の対処法

- 一 凡そ用兵の法は、①高陵には向かうこと勿かれ、②背丘には逆うること勿かれ、③絶地には留まること勿かれ、④佯北には従うこと勿かれ、⑤鋭卒には攻むること勿かれ、⑥餌兵には食らうこと勿かれ、⑦帰師には遇むること勿かれ、⑧罍師には必ず闘き、⑨窮寇には迫ること勿かれ。(九変)

軍争篇(九七、一〇〇頁) (竹簡本もこれとほぼ同じ)

正々の旗を邀うること無く、堂々の陳を撃つこと勿し。此れ変を治むる者なり。

故に用兵の法は、①、②、④、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨。此れ用兵の法なり

- 二 ①塗に由らざる所あり。②軍に撃たざる所あり。③城に攻めざる所あり。④地に争わざる所あり。⑤君命に受けざる所あり。(五利)

### 《竹簡本》

凡そ兵を用うるの法は、將の命を君より受け、軍を合し衆を聚むるに、

- ①圯地には舍ること無く、②衢地には交を合わせ、③絶地には留まること無く、④罍地なれば則ち謀り、⑤死地なれば則ち戦う。(五利)
- ⑥塗に由らざる所あり。⑦軍に撃たざる所あり。⑧城に攻めざる所あり。⑨地に争わざる所あり。(九変) 君命に受けざる所あり。

三 兵を治めて九変の術を知らざる者は、五利を知ると雖も、人の用を得ること能わず。

「利」…主として「地形」(一部は「敵」) ↔ 「術」…「敵・我・地形・時間」の四要素

四 智者の慮は必ず利害に雜う。⇨多面的に物事を見る

強欲(利だけを求める) ↔ 小心(害だけに怯える)・・・いずれも目先の利害に眩惑

五 諸侯を屈する者は害を以てし、諸侯を役する者は業を以てし、諸侯を趨らす者は利を以てす。

六 其の来たらざるを恃むこと無く、吾れの以て待つ有ることを恃むなり。

主体性の確保⇨物心両面の備え + 寸分の隙間のない態勢

七 必死は殺され、必生は虜にされ、忿速は侮られ、廉潔は辱しめられ、愛民は煩さる。

将の五危 ↑ 将とは、智・信・仁・勇・嚴なり。(計篇第一)

- ① 必死…かけ引きを知らない Ⅱ「智」を欠く ↓ 大局的判断ができず、大死する
- ② 必生…生きることに執着、臆病 Ⅱ「勇」を欠く ↓ 捕虜にされる
- ③ 忿速…短気で怒りつばい Ⅱ「仁」を欠く ↓ 自制心を失い、挑発に乗る
- ④ 廉潔…利欲なく、潔癖すぎる Ⅱ「信」を欠く ↓ 面子にこだわり、戦略を間違う
- ⑤ 愛民…情にもろく、同情心が強い Ⅱ「嚴」を欠く ↓ 優柔不断に陥り、決断できず

【闘戦経】剛毅と智・仁・勇の相互関係を説く

第五章 剛毅(四四頁)：「剛毅朴訥 仁に近し」(孔子「論語」)

第十章 三徳と一誠(五七頁)：仁・智・勇と誠心

第三十八章 知勇一体の理(二四二頁)

第四十章 兵の根本は剛に在り(二四八頁)

第四十五章 智なき勇と勇なき智を戒める(二六三頁)

## 行軍篇

軍の進止・布陣、敵情偵察などについて説くもの

一 凡そ軍を処き敵を相ること。…地形に応ずる軍の配置・進路と敵情の観察

四軍の利 Ⅱ 四つの地形における「勝つための戦法」

- ① 山岳地…谷に沿って進み、植生を利用し、高い所から攻め下る。(攻め上らない。)
- ② 河 川…川から離れて、敵の半渡を撃つ。植生・高みを利用し、下流から上流に攻めない。
- ③ 沼沢地…速やかに通過。水草のある浅瀬で、多くの樹木を背後にして陣を立てる。
- ④ 平 地…足場の良い所で高地を右後方にし、開かつ地を前にして草木を後にする。

二 凡そ軍は高きを好みて下きを悪み、陽を貴びて陰を賤しみ、生を養いて實に処る。

必勝の条件(地形上) Ⅱ 高地、日当たり、衛生、豊富な水と草

丘陵堤防には必ず其の陽に処りて而してこれを右背にす。…地形による掩護

三 上に雨ふりて水沫至らば、涉らんと欲する者は、其の定まるを待て。

物事が起る兆候を見出す ↓ 意味することが判明するまで軽々に動かない

四 凡そ地に絶澗・天井・天牢・天羅・天陷・天隙あらば、必ず亟(すみや)かにこれを去りて、近づくと勿かれ。

五 軍の旁らに險阻・潢井・葭葦・山林・藪薈ある者は、必ず謹んでこれを覆索せよ、  
《竹簡本》軍の行(ゆく)に險阻・潢井・葭葦・山林・藪薈の伏匿す可き者有らば、…

|| 軍の前進経路に、…などの身を隠して潜むことのできる地形( || 潜伏や伏撃に適した地形)があるときには、…

【戦例】 ソ芬戦争 — スオムサルミの戦闘 (名将に学ぶ世界の戦術 二九四―二九七頁)

六 敵近くして静かなる者は其の險を恃むなり。敵遠くして戦いを挑む者は人の進むを欲するなり。其の居る所の易なる者は利するなり。

《竹簡本》

敵の近くして静まる者は、其の險を恃むなり。敵の遠くして戦いを挑み、人の進むを欲する者は、其の居る所の者易利なればなり。

険しい地形が有利 || 歩兵、戦力が小 ↑ ↓ 平坦な地形が有利 || 騎馬・戦車、戦力が大

【闘戦経】 魚の鱗と蟹の足 (七二頁)

衆樹の動く者は来たるなり。… 少なくとも往來する者は軍を営むなり。

↓ 各種の兆候から敵の意図や行動を判断

七 辞の卑くして備えを益す者は進むなり。 || 欺騙・陽動

軽車の先ず出でて其の側に居る者は陳するなり。 || 前衛(警戒部隊)と主力  
奔走して兵を陳める者は期するなり。 || 隊形変換(作戦変更の兆候)

八 利を見て進まざる者は勞るるなり。 (追撃の難しさ)

馬に粟して肉食し、軍に懸甌なくして其の舎に返らざる者は窮寇なり。

《武経本》 馬を殺し肉食するは軍に糧無きなり。甌を懸けて其の舎に返らざる者は窮寇なり。

先きに暴にして後に其の衆を畏るる者は不精の至りなり。

九 兵は多きを益ありとするに非ざるなり。武進無しと雖も、以て力を併わずに足らば、敵を料り、人を取るのみ。

慮り無くして敵を易る者は、必ず人に擒にせらる。

これを合するに文を以てし、これを斉うるに武を以てする。

【闘戦経】 士卒の心を得る

第三二章 猜疑心を捨て權威を高める(一四二頁)

第四章 自分の踏むべき道に徹する(四一頁)

第五十章 威と勇と智に頼つて頼らない(二七九頁) … 同徳同心

第二十五章 威を懼れて罰を懼れず(一〇二頁) … 威徳